

## 自己評価報告書

平成23年5月16日現在

機関番号：33104

研究種目：基盤研究（B）

研究期間：2008～2011

課題番号：20320113

研究課題名（和文） 中国朝鮮族と回族の民族教育と民族アイデンティティ形成に関する総合的研究

研究課題名（英文） A Comparative Study on the Ethnic Education and the Formation of the Ethnic Identity of the Korean Nationality and the Hui Nationality in China

研究代表者

松本 ますみ (MATSUMOTO MASUMI)

敬和学園大学・人文学部・教授

研究者番号：30308564

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：史学・東洋史

キーワード：中国近現代史、アイデンティティ、公教育、民族教育、国民統合、人口移動、イスラーム覚醒、グローバリゼーション

## 1. 研究計画の概要

中国の少数民族が90年代以降国境を越えて近隣諸国に移動し、そのエスニシティとネットワークが注目されている。特に、回族と朝鮮族はグローバリゼーションの中でそのエスニック・アイデンティティを強化する一方で、国家が推奨する中華民族アイデンティティをも保持している。本研究は彼らの複合したアイデンティティのありかたをさぐるために、近現代における回族と朝鮮族の「民族教育」史および思想に着目し、両者を比較検討し、その相違点と共通点を明らかにする。それによって北東アジアにおけるエスニック・マイノリティの「民族」形成のメカニズムを解明するとともに21世紀の動向を探ろうとするものである。

## 2. 研究の進捗状況

朝鮮族と回族の近代におけるエスニシティ形成に関しては、民国期のムスリム雑誌の内容の分析、中華民国政府の民族政策に関する公文書の再検討や、韓国亡命政府文書、延辺档案館、台湾国史館所蔵公文書の発掘により進捗している。また、日本国内と中国で、かつて「日本人」としての教育を受けた複数の朝鮮族老人（80歳前後の男女）との面談を行うことができた。学歴、親の職業、ジェンダー、国共内戦時に居住していた場所、日本敗戦時の年齢によって、建国前後に朝鮮族としての意識化が異なっていたことが分かった。朝鮮族（男性）は「満洲国」時代は識字率が高かったため、人民共和国成立後もその識字能力を買われ、比較的高い社会的地位を保ったことも明らかとなった。現在、朝鮮族

は中国公民としての地位を保持しているが、日本敗戦と国共内戦の混乱の中で、朝鮮半島に戻ったもの「以外」の朝鮮人が自ら望んで中国公民としての地位を確保したケースが多かったことが確認された。逆に、回族に関しては、大陸に残留したものは圧倒的に漢語非識字者が多く、共産党主導で公教育と行政管理の中で「回族」アイデンティティを獲得するように仕向けられたことが明らかとなった。

また、両エスニシティの民族教育史と現在置かれている状況に関しては、史料の再分析とともに実態調査を行っている。具体的には、中国東北、西北、西南の複数の朝鮮族の民族学校、回族のイスラーム学校、沿海部都市における両エスニシティ出稼ぎ者、大学生等を訪問し、関係者との面談、アンケート調査を行った。その結果、民族/宗教教育を受けたもののほど民族アイデンティティが強く、なおかつ高い流動性を示し、比較的豊かな経済生活を送っていることが明らかになった。また、海外（朝鮮族：韓国、回族：中東、マレーシア）での経験や、社会的「差別」の存在も、彼らのエスニック・アイデンティティ確認の遠因となっていることが明らかになった。

## 3. 現在までの達成度

②おおむね順調に進展している。

（理由）

研究代表者、研究分担者と研究協力者が精力的に海外で資料/フィールド調査を行っている。ただ、一部の調査に関しては、中国の国内事情により円滑な遂行が困難なケースがあった。

#### 4. 今後の研究の推進方策

2011年度夏に、再度研究代表者と研究分担者、研究協力者が延辺と福建でフィールド調査を行うとともに、台湾の国史館等で史料調査を行い、最終年度のまとめに向けて遺漏なきようにする。その総決算として、2011年12月11日に早稲田大学で国際シンポジウムを開催し、今までの研究成果を世に問うとともに、延辺大学の朴泰洙教授、雲南大学の姚継徳教授をパネリストとして招待し、特に近現代における両エスニシティの移動とアイデンティティについて、発表をお願いし、日本在住の学者と意見交換をする。さらには、研究成果をまとめたものを商業出版する予定で、原稿を取りまとめる。

#### 5. 代表的な研究成果

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 28 件)

- ① 権寧俊「中国朝鮮族における民族教育の現状と課題」『国際地域研究論集』(JISRD)、第2号、2011、pp. 67-92.
- ② 小林(新保)敦子「改革開放政策下でのムスリム女性教師」『日本社会教育学会紀要』第46巻、2011、pp. 41-50.
- ③ 小林元裕「満洲事変期天津における対日ボイコット運動と日本居留民」『近現代日本の戦争と平和』現代資料出版、2011、pp. 71-118.
- ④ 花井みわ「中国朝鮮族の人口移動と教育—1990年以後の延辺朝鮮族自治州を中心として」『早稲田社会科学総合研究』第11巻3号、2011、pp. 61-82.
- ⑤ 権寧俊「朝鮮人共産主義運動と中国共産党の対朝鮮人政策」『国際地域研究論集』(JISRD) 創刊号、2010、pp. 1-21.

[学会発表] (計 27 件)

- ① 松本ますみ「中国西北とイスラーム世界を結ぶ結節点、義烏の移民ムスリムたち」『第6回 CIAS 談話会「移動が生み出す地域を考える—Asian Muslimの視点から」』2011年1月21日、京都大学.
- ② 花井みわ「戦後直後延辺社会の再編過程と延辺朝鮮族エリートの対応」『日本現代中国学会』2010年10月18日、中央大学.
- ③ 権寧俊「中国朝鮮族における民族教育の現状と課題」2010年8月27日、東海グランドホテル(韓国東海市).
- ④ 松本ますみ「中国のムスリム女性：女性マドラサのジェンダーポリティク

ス」日本国際政治学会 2009 年度全国大会、2009年11月8日、神戸市国際会議場.

- ⑤ 砂井紫里「中国のイスラーム：食文化、フィールドからのアプローチ」早稲田アジア学：確立への挑戦(早稲田大学アジア研究機構第5回シンポジウム) 2009年5月23日、早稲田大学国際会議場.

[図書] (計 11 件)

- ① MATSUMOTO Masumi and SHIMBO Atsuko (Keiko Sakurai and Fariba Adelkhah eds.) , *The Moral Economy of the Madrasa*, Routledge, London, 2011, pp. 85-102.
- ② 松本ますみ『イスラームへの回帰：中国のムスリマたち』山川出版社、2010、総113ページ.
- ③ 新保敦子(園田茂人と共著)『教育は不平等を克服できるか』岩波書店、2010、総176ページ.
- ④ 松本ますみ(共著)(塚田誠之編)『中国国境地域の移動と交流：近現代中国の南と北』有志舎、2010、pp. 206-236.
- ⑤ 松本真澄(共著)『中国边境民族的遷徙流动与文化动态』云南人民出版社、昆明、2009、pp. 89-112.

[その他]

なし